

丹鶴叢書

草根集 七



7 8 9 10 18m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 18m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4





草根集第七



宝徳元年正月朔日試筆
立春ぐゑのすすみあつむ坐とく御やまを風もよしからん
松鳶枝よそせの教とるするごとくへはよどもるが鳶
社頭神社あら居の園の竹のよしはよしとおととへとく
同日角まのすくよく種原利承とくらむふ

紫玉せ神あまむじと宿のすきひのねのすくのものも
を

ちゆうこくとどもとあきあまのけりかのねのとく

二日小室原偽前入と淨名手をとく

あつたまむきよのむかひのむだむのたゞのかくあつたま

か

あつたまむきよのむかひのむだむのたゞのかくあつたま

六日佳例のまゝに島山勝源大支入と覺え良のまゝで

まゝあつて

山朝霞 もののかまうさむおもひがまくまくまくまくまく

尋 恵 猛虎の山もたがまきのまくまくまくまくまくまく

寄神祝 くわくま神祝のまくほ人のめりまくまくまく

十日松原伊賀入と淨信かくまくまくまくまくまく

どめやかくすの病うえまちはまくまくまくまくまく

まく

ほくあそまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
十六日或ふるく清流あつて

早春餘寒 山もまくまくまくまくまくまくまくまくまく

春田雨 めやなきものなまくまくまくまくまくまくまく

寄藻恋 もののまくまくまくまくまくまくまくまくまく

泊雨漏篷 くままくまくまくまくまくまくまくまくまく

十八日武田大膳太佐景賢の家月次

松翠齡 ゆづらうじゆくまくまくまくまくまくまくまく

當坐

春 くじは又はの子日のまくまくまくまくまくまくまく

春 鳥 えもやけせうふあくとくへ
浦 松 ちのこの數かくみゆく
神 祇 あ原ハカマツ神がまほりてしらひをかくも
サ日暮山院寺のくじらあめの月夜を一小
梅 福春 まつまよ雪あそぶ鳥すみねかくも拂のれ是
初春風 氷く神の毛風やくく小ぬよびるやま川乃あ
歎 冬 つづきのま人のよもむよくあらじめやすうす
寄 黙鳥 今まむくねまくはだやつまにかく舞ふるうじ
田 里 まの回をほくさんああまはまくあくめうすうじ

廿四日細川右馬入を道賈あの月以よ

三松

遅梅春久梅うその匂ひの風を流りませのまくらのやまつ
當坐花 盛西風もくあもくおもくよく日敷もくねむくつ
一本糸ナシ 岸上藤 まつてつむきよくまく葉色人面のくのくのくのく
初秋引 福社もくのくのぞのまくづくはまくよくまくよく
秋 なまくねくまくねくおのくん早とむくつかのくせ
廿五日三宝院准后了賢門跡より即とく始ふ

初春祝 葵のくきこくわくは人のくいのくくわくのくく
木くのく利永下十全人まくもよもくとくはく
初春霞 あくもの春の霧もくくくくはくゆうくくくく
顯涙鳥 人くくく涙よなもくくくくはくゆうくくくく

古寺鐘 鳴らする音すゝむる聲すて清々苔むしる處

二月四日東下急入道まづ家より後山へ

山 霞 朝りくもとあふれるやうにすむのものも

春月臘 さやなる月をわはうる月は圓むたゞめたるも

見 鳥 くわがたの花の傍らすまゝ種を列ぐる所の

五日御垣太夫の家より自以て

竹退年友 ほーのものと數とかねうきて緑ともよ竹川のあ

夕歸鷺 三日月も我の心もよまつたのもひのるのるのよし

岡 鹿 曲くなる風の吹きの風の葉へとおもひるの無くあり

石面苔 いのちの古くはあらんせきとよむるのの葉

名前

六日好いも日宝上人の坊さまがちく一ツの手紙を

達残雪 まろかげ扁の扇のをくわびておもむくのよし

水辺歎冬 さかなくせ少くと波をやらきるのあくのよし

家苦愁 くらうのじやうの浦沼よもぎまくねくと

野寺 ひづれの夜をかづく物のまぐれの古てら

社川秋聲を活きとよむるもとやややの秋よ辞秋うむ

七日三井のすす僧佛院僧教長等の坊へたのむ

神くまかうだりうきあひに

暮山霞 かすむみたじのほまくの暮のつらをそよご

稀逢夷 るくわいのよきのよきの新穂あへきよとかくやへとく

薄暮鐘とよましとよましとばの音の萬のとよましのとよまし

八日又とよましとよまし

残雪をとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

名立鷹身はとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

旅行友太とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

九日新羅大邱の印的の村とよましとよましとよましとよまし

ああとよまし

沢求若菜とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

家風とよましとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

嶺林猿叫とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

十日おなづき月とよまし

霞隣山とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

行路梅風とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

家社祝とよましとよましとよましとよましとよましとよまし

神とよましとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

虫時とよましとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

近川とよましとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

十日小丘原傷ちとよましとよましとよましとよましとよまし

河渠とよましとよましとよましとよましとよましとよましとよまし

初春祝詠も引取業者へおまかせしむる所から

早春冰
當坐初月の氷流くさりつて名をいづるよたくすもの

秋夕ムツタケの秋の夕のよがけの月の神のまつらの

槁落葉ハリタケの落葉の風の夕の月の夜の

山家煙ヤマガシの山家に煙をあわせたる流くはせとつる里人

十九日忌誓法師のまもとを利承ヨウシ一月よ

春夕月スカニの夕月の船をあじてあひ夕月

山春曙ヤマヒルの山の曙をあひてあひ山の

名所空ヨウソウの名所の空をあひてあひ山の

初春風スカニの初春の風をあひてあひ風のやうにあひ

予指

野堂ヨウドウの野堂のたゞ次第がやうの

暮秋雨ムツウイの暮秋の雨の時節の候

篠霞スズキガタの霞をあひてあひ霞の

寄月恋シモツクニの月の恋をあひてあひ月の恋

古寺コトツジの古寺の寺をあひてあひ古寺

廿一日隠岐へ道する珠家の月次

梅久馥メイクフの梅の久馴きをあひてあひ梅の久馴き

朝霞チヨハの朝霞をあひてあひ朝霞の朝霞

穿画廊ツナガラの画廊をあひてあひ画の廊をあひてあひ画の廊

穿琴道ツナギドの琴道をあひてあひ琴の道をあひてあひ琴の道

枕上鶴 あゆみのくらむもむすのまゝよおつる鶴乃とゆき

廿二日妙りかづく三十日はくさゆ

山 霞 まやけのむかとあくまでほれをあくまく

花 梅じらむくまがくねいきくまくわる乃やまうす

鳥 せりじぬ波のほのひやうあくわくやまとよいの舞

寺 まほの社すまほの祭すまほの寺すまほの寺

サニ日明常寺とよふくへはくすくす

霞 残 そほじくのあく風よまぐるまくとくにこりくく

春 月 おる月のあくまのじきふ別うみとまわくまく

氷 邑 きよきよくよきよくよきよくよきよくよきよく

手稿

桐 柿 春 春 磐_當 磐_美 桐

一葉

一葉うち枝の扇よまくすく指の桐や名とのまくす草

消_失くぬ草のむらうくすく牛_{一葉}のまくすくすく打_失

廿四日右馬込の家の月夜

風 桜ほのかくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

雨 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

巖 ようすくぼくぼくぼくぼくぼくぼくぼくぼくぼく

晝 まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

牛 なづれまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

祝 まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

廿二日車とゆきまく折あくく復_失のまくまく

朝 花ちのまよたのやうとれの月の消へるをものと同
別 恋うらははゆうれのみなうむ原を月のやうう
浦 鶴えみゆうの原すまほひさちう鶴の月乃毛衣
サツの藤原利家すゑく月ひづ。

夕春雨 あさくさくさくさくさくさくさくさくさく
山花連 まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
名所海 せのうめいせん竹やねまきまきまきまきまき
海上霞 うみのあかねやねまきまきまきまきまきまき
夏草滋 あさのあさのあさのあさのあさのあさのあさ
江 月秋のまの波やまくねくねくねくねくねくね
秋一本

別 恋 あの人すがくくくやうくくくくくくくくくく
名所稿 おとこなうおとこなうおとこなうおとこなう
二月一日一きたま太支教親家す令不作度な
くほせやくすがくすがくすがくすがくすがく
春 氷 こくこくこくこくこくこくこくこくこく
躑躅 つづくつづくつづくつづくつづくつづく
逢夢恋 おとこなうおとこなうおとこなうおとこなう
窓 竹外のよみ草をすもなまくせんまくせんまくせん
三日右馬介の家の月ひよ

花面歌 はなめぐらひ小うてくやうくまくまくまくまく

田雪雀シロハコをあはす。一月のまの糸シメもなづ。床シタとす。花
羈中鳥シマツノウソウ。うつまゆせしとよきにとくそく。のり。酒サケ。おとせとく。とく。ア露
當坐カタスル

花慰老

ゑゆのむくとやまくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。

窓花頭

うとうととよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。

富戸花

七十のまつら。おはなとくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。おはなとくとよか。

六月淀川右義

左義カミ。伏義境ハラカニの亭テイ。とく。神ミツ。とく。侍シテ。とく。小

見花

花ハナ。弱ハリ。か。葉ハタケ。静ハシタ。じ。う。い。る。ま。く。お。も。く。う。く。う。く。

富戸花

少ハラハラ。少ハラハラ。少ハラハラ。少ハラハラ。や。み。の。萬ハチ。を。深ハラハラ。ち。さ。づ。な。る。ら。き。

富戸祝

ト。よ。う。そ。ト。と。の。花。の。宿。の。庭。や。と。り。ん。そ。と。と。く。と。む。

七日三宝院サンボウイエンの門モン。方普カクブ。院イエン。大傳オトツ。了賢リョウセン。ト。う。と。れ。の。枝ハラハラ

子林

了賢リョウセンの詩

きよがく。枝ハラハラ。枝ハラハラ。枝ハラハラ。枝ハラハラ。枝ハラハラ。枝ハラハラ。

よひすか。あ。の。日。よ。ひ。す。か。一。枝。よ。つ。よ。つ。

あ。の。す。か。か。か。か。か。か。か。の。も。と。か。も。の。も。と。か。せ。せ。せ。せ。

七日平元明ヒラマツヒラヒラ。一百ヒヂの。ゆ。つ。

雪ハラハラ。雪ハラハラ。雪ハラハラ。雪ハラハラ。雪ハラハラ。雪ハラハラ。雪ハラハラ。

五月雨ハラハラ。五月雨ハラハラ。五月雨ハラハラ。五月雨ハラハラ。五月雨ハラハラ。五月雨ハラハラ。

駒ハラハラ。駒ハラハラ。駒ハラハラ。駒ハラハラ。駒ハラハラ。駒ハラハラ。駒ハラハラ。

逢不逢ハラハラ。只ハラハラ。只ハラハラ。只ハラハラ。只ハラハラ。只ハラハラ。只ハラハラ。

懷ハラハラ。奮ハラハラ。奮ハラハラ。奮ハラハラ。奮ハラハラ。奮ハラハラ。奮ハラハラ。

十日修理大丈の家の月次

山路雉 椿うみ鶴うみつばなあくまくわくとせ
暮春月 天の川ある月の季のすまのいなまかくとせ
塩屋煙 當坐 さかなや烟を名のいはるあむ一枝やしかくへたけ
桙 當坐 え にまくの花をのこすもよこす枝やかな花あらむ
松間花 さわらわやかな花の花をと風とむる

山家花 はとねみの花の花をとせもの花のいはる

十三日修理入道まほきよ

夕 花 まくらととく風むすんでよやくの入とくのいはる
河 蛙 ちゆもよまうほのうかともうかのいはるの水のいはる

遠 村 富むよなまくまのゆのゆかくよあるとけふくよ
當坐 落梅浮水 ちむももみよしらしづるのひのよ岸のゆよううらじ
岸 藤 谷のねづまちどくひはくよだらのうの巣のひくう枝
隣待鳥 ほくもたのめよとくわくよとくのうの隣をよくよ
立名恋 ちなむれなまくよかくよのまよよとくうかくよ
岡 松 故かくよもまくよかくよのくよかくよのねよ

十六日佛地院修院長善坊の月次

纏見落花 衣やまとまゆまきかくさくのまよかくさくのいはる
深山残鶯 緑よ木にむさきの太い音をかくすくすく谷よかくすくすく
海邊夕雲 夕鶴もなむらの延びの音をかくすくすくすくすくのいはる

春曉雪

當塗

けくしもむかひの夜の様すなまくからて因みに

春夜星

すまうる星みえふれ清く露あめがよそのゆき

春顯處

せめうらむすまきるやまをまかねふりやくも

春述懷

おうよもゆのをほよまくあめとひそひん

十七日平頼貞

資一本
遠の手

都

霞 さまたとひやあもそとあはれのすやまくも

稀

あせむすりとひそめん

島

松 唐ちもかく人種や生まへたのまつる秋は島まつ

十日大脇大夫の家ノ月次

花散見

さくまくしきのあこせのやまとまくとくのまく風

子林

夕田蛙 かくのとみはるも寂消く寺のす因よかくなまこゑ
寄
寄湊魚 まくのぬくねく游とまく川名す和山被の下にとま
竹裏鳴 たがくの魚のうつまくあやうて嘗めりのうづむ竹
花慰老 井戸の先とまくの後むく被よりくる花のうづ
絶後魚 あくまくかくい丈の重くもかく樂のばんをまくと
洞
洞 松ね枝よすもねくとあくまくの谷のき乃むくと

或人陶洞門のまく扇子漢をあをもよむ付ける

行ものとあとうけやほ菊のとすまく秋のまく

廿二日峰塚大脇の家よりよみあつまつて

霞遠隼 あくもたなびくとあくをねじくとあめをぬくとあめをぬくと

残春少
憑契多
寄山懷旧
自廿日往
因廿日泉壠
さくまつことよ

初春霞
五月雨
鹿隱霧
冬曉山
せきの月のを

返書
羈中朝
廿七日量
まるやまと
月前帰雁
二月表日
よ南庄念
首
逢

名本
木本
本
木本
名本
木本
木本
木本
木本
木本

海 村人ちくちく活きおほき歌のうまいもん

二日或人百手の法樂ぢやゆよ

立春風 おき出でせのことをばせや風のくすもの立む
山家花 かみのものをほのくすよがるくすこすみむ
搞 蛍 槙ねくまくまとなく夜よけたるくまくま
故郷露 里へもとぬ露むのれづけに詠かみ詠かみ詠かみ
古屋月 宿はれ満なむし一月をすまきつ月のじとくがむ
千鳥舟 くもねくもあくよの船のすまくもおとわくもくも
穿岡鷹 たのむよまくまくねのあひる哉林岡の穿ぬけてくむ
穿虫魚 うきゆのあくよまくいじとちの今もよるくもよれ

古寺鐘 小初唐やさくのまくもとよだくやまくもとよの鐘
年内立春 年内立春まつゆゑあいとしもあるまくのあやまの伊へくらむ
立月あくよの又をくわくよ

寒草霜 寒草霜さむらう霜のむづまくまくもくの秋景
見 鳥思見おもよするめのいとくすかくの秋の秋景
名取鶴 友鶴のむくもくの相とづきをとむの音ちくもく

釋

教 きくまくせのいもくのまふとくわざのほよどく法

六日念佛寺成就院より西多法門寺へ後

夏月易明 みる花もさすがに竹川の橋つる月がす

夕立雪 おうそも風うつむか夕立すまことあく

曉 遠衣の袖よしよしとて人のよき月のつづき

旅泊三夜 いとまことにまづ小舟を泊夙よなづはやく袖の旅の

七日中海より念佛寺の寺伝の所とて詮あす一中よ

霞 ちゆくの霞のたうとぞう川のあふむひのくと衣ふ

擣薰枕 捣くらうのあすくうきぬの枕や古きもつともじ

契變約魚 セドウカツハキモトとて人深き水のかくじはよきの

子根

羈中山嵐

風一本美

やまとひがしままくもくもくの山の嵐も月もよるの落よ
八月のまゐる人ほれはるく白きのまくすや

初 春 みどりすねもまくくはるひとてあらまくはるか

花 花のまくすねばすよおもてとてす月日の先をよしよ

五月雨 みなみのまくはるかにとまくはるかのまくはるの

山海行 まくはるの山海行はるかにとまくはるかのまくはるの

秋の月 まくはるの月もまくはるの月もまくはるの月

落葉 太山風をくべくとてのまくはるかにとまくはるか

不逢魚 人もひとまくはるかにとまくはるかにとまくはるか

懷舊 もつとうとくもくもくとてのまくはるかにとまくはるか

十日又人の家へとて宿すトモカヨ

鶴舟廻島 カクボモ二ツの船舟トモカモアリテアリ川河^モ
逢後増兵 あけにまかくとせのからくもみがまきしはなづの被
夕陽映島 沢の水タのまゝやまかうぐく日影もともに波打つ

十一日又人の宿候候とて宿すトモカヨ

三 春 天の糸あくるやうの闇をきてよしと候するをキカシ
春月臘 ものの神ミタマ^{ミタマ}のまゝやまかうの月
郭公稀 附鳥とひよーいはひもよどまほくによくひくのいのふ
庭 疎 冬すをさむる度の石をひらする相間を候よこをまむ
里擣衣 風あくはさくやうつぶせめをかうむのあひのさくわ

松

雪

まくわく海のとあるをあせらすとまほのたゞるカト

家鳥

ひかる持立草ヒカルヘシ あくらのたぢまくすも列くやう

夜

雨 ふるふるのくわくまくあらむかうのくわくまくが

十二日又人の宿候候成就院

訪とてこののあは

暮山

山卯花 空氣くもくもくとあるがおほくのまくらのう

憂後郭公

附鳥とひよーいはひもよどまほくによくひくのいのふ

押波悔應

契うつてよどまほくによくひく源や波のくわくまくが

當坐

初春風

ぬ風くわくまくとあるがおほくのまくらのう

外山月

月うつくしきつやかくねのれのまくらのまくらのう

湊千鳥

千鳥うつくしきつやかくねのれのまくらのまくらのう

名立恋 かまくらのまつたつの市ひの日小まよのれいへのふる

田家鳥

さあさき ほねのむし

一本表

十四日又或人玉蓮舎とてはるはまほとてはるのやふ

早春雪 あらじのまづかさをもむかせむかわくはまびとく
紅葉散 あじしやま人のまづかさおのじのまづくのあらみじく

寒 草虫のまづくじゆの秋のまづたまづのまづく

宍拍恋 たうねりのとくまく柏原のまづく

暮山雨 すまなれとくやまのまづく

十六日或人のまづかさのまづく

林新樹 えきしんじゆのまづかさのまづく

三種

戯 夏月 ひよきへねる破の支の秋ハシテ月と見とふ

庭上鶴 わがの浦のまつてつるしのせの友むしるる宿とね

海上晚霞 當坐 おとづらきのまづくかくくよせと萬ばなうのあま乃

霧中求泊 活也裏 ものふたと失をせきとてうなづくハモ羽のまづの浦へ

初冬落葉 伸き月とみまの秋をそぞとせせぬねむすまくちむ

非心離鳥 そよぐすとくすとく小鳥のまづの鳥のまづかくよかう

樵路日暮 雨まづり入日どかくまづまづくたぬきよづく

廿日西坊長海ゆはるまづのまづ

下十一行一本表

薰 葵 あるのあさのひ唐あひはくわかくまづかの川沿

早 苗 じゆのまづのまづくじゆのまづくまづかの川沿

祈

立春 朝の三と油瓶めのぢくもまつらす。うらゆ

當坐百首
歳中立春

つ美本

橋 犬をさよがひも橋の度の神をまほのまみのうり

盧

つ美本

嶺紅葉 ももなみの山の入日のゆづる月やもむちのわくへむじん

雪朝遠樹

合著
うきのわくれの秋のものちう一林のきく乃へ

寄雲恋 ちうくよくたのハラミ、まめつくるおとこもぬえす

原上旅宿 はたのあさせの宿のま枕や。うらやうらぬまにせ
往事催涙 なまくらかの涙もじめでふくのあはれをせる神を

サ二日佃道す場と寺と人とあめくわい

山早夏 夏のまよひのまよひのまよひとせくにゆり

名前

寄京恋 さよよみせすのまよひとまよひとふくよあをくふくよ
瀬上龜山 じややくさん苔のゆきよしもと稀の毫はくも
廿二日世人住吉玉津島両神法事とくをまのうへや暁立春 すゑはくじゆきよしもと稀の毫はくも
残花 すゑせだくじゆきよしもと稀の毫はくも
樹陰照射 木の色もあきくえのまよひせばくすくにしきもやぢ
萩風 そよのまよひを吹風と呼むせよひくの神のまよひな竹間月 すゑのまよひ竹のまよひ神のまよひおじうわくやむくじ
紫霞 序の場よしもとあくの玉くじをまくよあくじ
閑居鳥 うきよひよしもとあくのひくじをまくよあくじ

切
魚 松もささやく山の音をやめさせまつる夜のやまと
寄 花雜 （よなづか） かへりたるのまゝまよひのよだの近う野
寄 橋雜 （よばし） あらわせ候もすこねがまの後やく橋もせまの神
廿六日又寺人の同あ神法樂百合子すけ カよ

早春 雪 松風もささやく山の音をやめさせまつる夜の神
花未落 （よなづか） まつもささやく山の音をやめさせまつる夜の神
簷菖蒲 （よなづか） かへりたるのまゝまよひのよだの近う野
堤上霧 （よなづか） かへりたるのまゝまよひのよだの近う野
寒夜月 （よなづか） まつもささやく山の音をやめさせまつる夜の神
寄車馬 （よなづか） まつもささやく山の音をやめさせまつる夜の神

田家水 人全きぬがとどきひはく石打むれなるがまくまが正り
上陽人 （よなづか） 三十日よ一朝 （よなづか） なむやまくぬきつゝ雨よもよも
廿七日偽毛人を淨えまよひおもて

り合の津かへりて神事やまくとおけむへとまくまくのま

を

我と神うけりまよひかへりて神事やまくまくのまくとまく

一

我と神うけりまよひかへりて神事やまくまくのまくとまく

廿九日寺人の手寫すくあ神法樂の百合子あつてかよひ

一月の懷紙あき

庭松綠滋

當坐百首

つゝの宿のかきの庭の松のもとうのまやまの川す

立

春 もよう源のかきの竹の下にしきはもれとかやまくす
花有遲速 さくらもあまく日暮をまくらむじよがくく一花のうそと

晚

夏 六月のまきのまちの川の風のたるまきやまくす

遠村秋夕 ゆづくまきのやまくすかくとくの里人の秋のゆゑ
水郷紅葉 もせらともねぐまくすかくとくの川うせ
美ナレ
冬池雪 めのゆのまの様ましまくすまくとくのまくすもやまくす
春 感 きよみじゆくまくすまくとくのまくすもやまくす
秋 感 うきなまくまくまくまくとくのまくすの秋の感
名歌述懷 いふまくまくまく楠のま枝まくまくまくのまくす

五月四日於櫻下宿小福山にて陽より福移丸

泣りの西風あこまつ三首懷紙

軒夷

簷菖蒲 神をかよなや形そのしのむまくすとせらもやまくす

河五月雨 水まみハたうひよしの天のほのひがまくすとせらもやまくす
松為友 ちくうせぬとめとつけゑよてまくすとせらもやまくす

當坐百首

初春霞 まくさく天つてまくすとせらもやまくすの神も冰とく

折

花卒あまやまくす枝まくすとせらもやまくすの下組

里

螢 挑まくすとせらもやまくすとせらもやまくすの里とハラシハセラもやまくす

夜

萩 ほの萩のまくすとせらもやまくすの萩まくすとせらもやまくす

冬

月 ほんゆまくすとせらもやまくすの月とハラシハセラもやまくす

曉千鳥 かくひなむるもひうきぬ一古川原よりの月
穿煙處 まことの烟の烟二本川原よりの月
老復懷旧 舟のよかにしきどもとを思ひはづく二本
端午日玄人遠あづけ やふ

夏 風 風は秋へ神が秋のあやめ匂ふるを

夏 藻 打ひしむらか豆すら魚も浅入るといひ夏の日

夏 牛 やまとよしの牛の足のと車一本牛の足のと車をよみ
六日院 いわく牛の足のと車一本牛の足のと車をよみ
董火入簾 中絶する煙のよすぎてからみのよ入るの外

寄雲列一本我浮きゆつて精を祓うゆす形をあづけ簾

古寺水 源をみせる處あるのあら見ておもひて拂ふ浴あらう

八日水泉庵一本水をあらはす人無れぞ遠あらゆのや

河岸花 川の滝のちあわかな花をあらはす岸の花を

寢 恋 宿のよし染をあらはぬ事の先のよしを神のうへの角

夕 鐘 ほのかよしとすのうそよしのうそよしのうそよしのう

九日同庵一本あらはすあらはすあらはす

遠山朝霞 みよしにし森がよしとすのうそよしのうそよしのう
故郷秋月 ほんじよきとすのうそよしのうそよしのうそよしのう一本
晚風催恋 神のひよしよしの風のほづてよかよゆふねくわく
暮林鳥宿 しゆくや竹の舟すかくのうそよしのうそよしのう一本乃る

一日因不よ／＼おまくあはる遠ちがゆ。

月前梅 乞は用光もさしむら梅の匂ひ／＼あひの月

秋時雨 しゆり神のあはるぬをなりてあるとほぬ秋の月

池鷺鶩 つるわく玉簾の枕もむりとすみやまとくのをく

寄淺茅島 やの風や草もむらう村よこむすあらものきのゆのせ

住 吉 契おうむくハ故のか／＼きふ又が字のまづ／＼のまづ

南寺西坊 しゆふくわくとくの御原友親よりい／＼とのあくとし

うゆまかくもくはる追慕とく詠お／＼のまづ日あか

早 春 古事の原のまづとくと神のまづのまづ日あか

落 花 まづくまづこその獨れぢとくと花よするおも

年報

恨 恋 まづくまづく人向しき病よ先消す／＼秋のまづとも

規一本

野 寺 まづくまづくまづくのまづのまづかまのあづのまづ

十九日ま／＼見水庵／＼まづくまづくまづくまづ

禱薰袖 りさみハ十氏人の神の香モ小一歩よおせのなまづ

規一本

鶴川無精／＼舟かくまづく川やまづくまづくの朝うらえ

ね美一本

懇切鳥 床中もまづくまづくまづくまづくまづくまづく

ね美一本

廿日念佛寺のむほ賢順とくとくははく遠ちがゆ

竹亭真来 变のまづく床よまづく川よまづく竹の居のむとくははく

互別鳥 さくめおとくのへまづくとくとくははくうじくとく

かく美一本

田家見鶴 秋のむかはのやまづく川のまづく鶴よまづく

廿四日あさひと上洛をへてまわる。小見水宿とまよて
二三のあらきへ小宿吟よ詠へく名をかげてせりはる
月前當龍 自身のよきこの月のまのづを村にまじめくこすりてまよて
行路夏衣 あつひ日のさむれ衣をばらへてましんあるまつうのゆゑを
暮林鳥宿 まよつてむらの井を消えきるまよる聲のゆゑむら
サ五月まほりに海をへよ又住吉よりまよふ

とよひにまよふ

おとと新しくもまよて神さまからまよひをよ

サ六月四天王寺より後原宝好方をまよひゆ

立春 大体のまの白浪をまよつまよとがくととよまよ

そね

春駒 約ひよがまのまよひのまよひをもあひまよひをもあひ
郭公 極めむるハ乞きをもとむもとむとめのそらはまよ
夏月 徒ハ行月新秋がまよきの席のそらはまよき世によ
路薄雲の底を消えくまよきよまよくの神をつ
月嶽一本 約ひよがまのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ
秋秋 秋ゆくハ詠をあきゆくすよすよすよすよすよすよ
井炭 寂きよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
冰竈 玉よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
初恋 恋めすよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
恋あたまはよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

恨

类

水 郡 あまくさのやまとひがひたるほどのよぢよぢの里人
蕭 寺 はるよせつじのなまくとしゆきをもつてあつまめや
の一本

六月六日名渾ニサ猶教豈も月次よ

路郊祀 まよひもの下をうだりしもよう枝をえやくす
浦夏月 のめううとの里のかずかがくわぬほの月
幕久鳥 そなせがや栄をがまくちの清つるがくわく
早 夏 ぐじとすむきのまのまをうけねよもどとされ
家苔恋 あいのれりやこほの草苔くらむをくらむ
雨中懷旧 ぬれくさくさのまよおけすけうかづの往く

十一日藤原利永けほき一月次よ

夕 立 あまくさの橋のえきや虹もやももいのくは
夏月涼夜衣もゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆき
路 芝かきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆき
當坐 渡 夕花 むものゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆきのゆき
閑菖蒲 緑やうくあやかともえをくぬぎとよきとよき
夏顯鳥 花菖蒲ははなをうせつめの被ひひすがくよかくよ
閑居夏 鶯もよもひをもひよひははよひよひの涼一月ねり下庵
夏述懷 なごよもひをもひよひははよひよひの涼一月ねり下庵
十三日隱岐入道まみ球けほき一月次よ

の一本

松下水たゞ改めねおくより流せむるゝ小川も又のためとや

朝

市子のゑすふらむまゝ三民の新をほめつゝまゝかゝり人

當坐

首夏郊花にあらわす御を月よみのよの影をやどての夏の節

舉久恋葉とハ初めゆきよひとくがくの内の中のますうねる

閑路曉雲

あはねやまくまのゆきねすとゆる雲路のやまと川らむ

廿二日赤松刑部大輔教貞の家より初めに次第

小

初春霞

さくらなむむきよくさよまづちのあやま花年も

早苗多

こゑばくまめのいすと引抜くも月よみのぬ小向ちみたり

落葉深

なぐらむすみのくの落のさすづはづる木葉の様のむすと

曙峯雲

ゆきかのきすみのむすはせとなくむけりおとせよまよ

名天鶴

さくねんにさすのくもむだせじがふはまへん中鶴

廿七日鴨游之基まくと一候うのゆよ

夏

夏

夏

夏

夏

夏

風

まひそよしれぬそよごとくの風のぬめとやすらぎのそ

川

川氣みまきはせよよするのものとぬいのぬとあれるうそ

衣

絹ひくも形あらねりいのわわく汗をうらぐものと

秋

七月七日仁地院僧教もは尋坊よくせやその候がまく中

初

秋夜の西むけよみの風よ桐の一葉の舟をよろくる

七夕

別仙人のよろの竹のやまとやまとのうるわよまとほくとん

河

月日あくよまくよおきじの肉女の事あむくざよとの門

寄星魚せめうもすくよだくのあまく深き夜の星の景やうと

穹玉鳥タカヒコはとくはとくのあよむろとぬまのおつる候も
田家鳥りうづまことづとひや前桔アシガたまれるつ回りむ村を
羈中河アシマツカニハシかくらんすあくもやうや旅人のひづの橋
日七日たまちの家よりを詠とおこなまひいと井
まとう詠くよ歌つまへはー

七夕雲タチツキ星のやくともむすびものじと乃ち
小鷹狩サカタゲやうきの風の秋アキのよどづきの小きよく
水邊菊ミズヅタハナぬまくほまくよまくすくわ波あく菊の下シタ
秋山館アキサンカン一本後
タケヒ秋山アキサンうつくしの山あく風カキがおのねくと
穹秋山タカヒコサンかくよハおうひときがく林カヤあくわくのよまき

秋島鶴タカヒコのうは新霧シムジたうすまくもをぬ秋アキのよまき

九月山名タケヒコ新シニサ捕教ハラフ之家カミす神ミコトく月次ツキシせ

初秋月アキツキ秋アキの月ツキあくは月ツキて四才ヨリの自處シス
外山鹿アヒル車カミのおりと麻シマや出ハシマへんすみのまつ木マツキすたえタエも
穿アマ世祝アマハセあくの祭マツルふ神ミコトのちり色道カラヒタチにてのそ

早松アマヒマツ秋アキすすきとくさくわくも、おもとのれの林カヤのれカヤせ
葛アマねのゆの衣カミのふもすくおはるほく乃アヒル秋アキ風カク
聞アマヒマツらむくむじゆくはまの風カクよ根ハシマおくほくもこのこと
曉アマヒマツ鶴タカあくねやまく梢シマのるの毛モコうじきをもるよつてのき

十一月表の月次ツキシ

初秋 狹吹^{セリ}も風ハあつとも秋かくへむよし秋のあうとからす
深夜虫人^{ムシヒト}などじよそまん林のむなへよろちよを涼さすと
寄舟^{カモチ}ようとくえぬまくしてるひおほ舟のゆきふたぬ波のうきよ
當坐
秋 夕ゆめくはだまうくまよあまくらへどよし秋のうきよ
獨惜月^{ソクツキ}の暮^{カヨ}のよまもあまもへに宿もとくの月の名はおふ
宮^ノ襄惠^{サクエ}みすゞゆく後^{ハシ}のゆのこづかよし衣のく乃く説うみ
隣里鶏羽^{トリハシ}とすく鳥の絆^{ハシ}をいとくとくおほくとくとく人
十日大抵^{タダ}大まの家^カの月次^{ツキ}

早 秋 白露^{シロヌイ}も扇^{シヤン}も持^{シヤウ}も施^{シヤウ}もとおく林^リせ
秋 田 林^リの図^ズのほきの活^{ハシ}あくふあくが男^{ハシ}女^ガの扇^{シヤン}の活^{ハシ}らむ

島^{シマ}
當坐
松^{マツ}もあせう先^{セン}ほとくの年^ナはやうねえくとくせつ島^{シマ}
月^{ヅキ}もよく秋^{アキ}とおこうと持^{シヤウ}もとめくほせうち小月^{コヅキ}とゆうくらん
秋^{アキ}逢立^{アキミタリ}友^{トメ}くわりむおまくか林^リもみやうる月^{ツキ}のよこくよめう
秋^{アキ}園^カまし^カはれ^カ白^{シロ}木^キもすあく^カ英^カかく^カくもすう秋^{アキ}せ
十九日修理^{リメイ}たまへ家^{アフ}へ渡^シあわうとよ

江^カ狹^{スリ}前原^{マヘイ}や古江^{コエ}をかく林^リのやまとねまくとく^シ
海邊月^{ツキ}ちよ^シ延^{ハシ}のたままを譲^シく船^ボもとま月^{ツキ}もとま斗^ト
尋^シ魚^カ口^カとまくひじむくとまく^シ入^ルのまやひくとまく風^カ
山晚鐘^{サン}さとうくの林^リのやまくとまく出^ルのまやひくとまく風^カ
サ二日たまの家^カ月^{ツキ}す

新秋雨
萩映水
名所鶴
早涼到
駅路霧
空默魚
白鷺汀
故山猿
サムラ

當坐

タヌ

虫 松 村 紅葉 菊 立名 蓬 暮林鳥宿

嶺

當坐

松 桦木の葉を取るはあつてゐるが、松の葉を取るはあつてゐるが、

早涼到

當坐

神涼 早涼の秋の風よしとあわせてもやぢる

紅葉取

當坐

紅葉の落葉を取るはあつてゐるが、紅葉の落葉を取るはあつてゐるが、

尋梨

當坐

梨の葉を取るはあつてゐるが、梨の葉を取るはあつてゐるが、

立名

當坐

立名の葉を取るはあつてゐるが、立名の葉を取るはあつてゐるが、

暮林鳥宿

當坐

暮林の鳥宿を取るはあつてゐるが、暮林の鳥宿を取るはあつてゐるが、

廿九日隠岐入道まで詠家の月次詩

初秋風
田上彦
秋風の匂いの香の玉や小鳥の民もすらすらくや

寄蓬遠 まきとくのむらやし旅ぬとやほるくのあひに波風

草

當坐

花 ちかく松風よりよ百萬に一もいそくをまのうすむ

暁

月 被ゆくは晴れよはあはよもほのそよも拂る月の

寄秋枕

まくらしやくさくまくらせう我社の秋の枕參

秋 懐

あらのまくわゆは秋をまくわゆは拂ふ風かづひ

八月四日刑ア大捕の家乃

薄出穂

えみゆゆめをじまくはのたかくはねばとく

秋夕月

かづく月なまく林の夕月小説やまとくをゆくには

名所鶴

ワのまよは秋モモホレ林のまくはの秋の色の毛も

夕聞萩

どくとくふよやけても被ゆるぬ誰やくちの萩の夕風

當坐

一本

吉裕

寄秋別店 まきとくのむらやし秋の聲に被の別ア一の店のうち
秋旅行 まきとくのむらやし秋の聲に被の別ア一の店のうち

五日日下部宗頼ひはきへ詠おのゆ

曉立秋 別ア一時をかげ秋立ぬまのせ月の清きへあきの

槁邊菊 ゆいやくさくいはよすをやく葉後谷の林のうきよ

寄星恋 たのむかひまくはのまにのまくはなしむかひまくは

寄歎憇 まくはむむむまくはの虎かくはの虎かくはの虎かくはの虎

古渡舟 はまくはせと漕くはの舟人の心のまくはおもつへやま

八日山名たまつ佐勝豊祐へ集まくへ小傳よ詠おのゆ

シテ中止

初秋朝 ゆのとれ林やえのるのる日の出をとむ風
不逢恋 いつとなまを令とせすハあくへてはせすあくめ
名所松 あくすがいあきのつのうにせすがく。おのほよあく
ばく故中勢大拂照貴妙なる思ひくわづかむ

一本

同日渾ふサ源の家の月次

名所月 四石の月より人之出で秋季をす風もりぬあく
小鷹狩 痴ぐるほどのむかのじ鳥又をそよがくわづかむ
寄風恋 人づく狂風あくをそよがくとちけ舟のじ風もくわづかむ
當坐
裁 羌少室うたけや植えむじのうよをといむる度の秋もく

彼をよ白く歌くシ歌あるわう

名根

暁 鹿 神さすりて曉露よ立ぬ日と月とよしぬ席のじをと
晝 恋 みくまむまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
巖 岩岩ナレ 松 うらゆのうらゆく岩のねのうらゆあくまくの尾尾ナレ うら

九日あす入道淨えの家の月次

風前鳴 吹くいの底底ナレ おちくすくあくのじはら
獨對月 ちまよがうをねくべく月と二人の床とすけゆく
名所松 大波のねよ風神もとぬつてあく名のじまよ
初秋 當坐 人を海くやまくやねく一束をもすよなまくあくせよ
稀 邑りくまくまくあくをげよよくわくまくかくまくう
天 あくすよむかくまくとくまくとくまくとくまくとくまく

一十日夏原利永沙はまく一月次よりかどりて一月土岐
たとえ支持益家アリ故譲倉の持氏息東十九日関東
還入のマツサニキ幼稚のほばるをうそく一女を産む
三本
カニシクシテシテガヨミルシテヨクシテ九、ノアシナムシテモア
く車京のまくとおつゝ又の名アヤシムアツシツキ
侍の事務あるまくの事トモト事務を専門アリ御用ひ
フニシテシテの事務を専門アリ

九月セモミツの（のうもとふべく）月ナニナニモモ
あやまつをわすがくアモモクシテモアの事アリ神
ソリの業ナニモモナリ教をあづけテナシの事ナニモ
モ付一

三の終より五年の間アリ同様金庫上流の事アリ神アリ
の事ナニモモナリアモクガムドナシテ一

ほの事ナニモモナリアモクガムドナシテ一
ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ
ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ

ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ
ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ

ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ
ハナモトシテシテ候モアリテ一ロアリモアリケンモアリ

秋見稿

タガツアシテシテ候モアリテ候モアリテ候モアリテ候モアリ
月アリケルケルキ小前アリ月の前アリテ候モアリテ候モアリ

兩か月の間アリ候モアリテ候モアリテ候モアリテ候モアリ

曉

露もの川の水の時のはやる音をもとめらうかな

連夜待て 待てをなむかの三日の月もあつてもあら
遠樹鶴 鳥のるのまゝ本多とよひる月の月もあら
樵夫帰 つゝかくと人のさうばかくののか
一本

十五夜たま木支教親家とく百三五一小

卧待月 まどかにまどかの月やまどかの月やまどか
苔上月 谷の苔のあつておちておのぞくの月の月
水中月 まきりかくのあとおのぞくの月の月四
行間月 ほざかまどかの月の月がまくまく
月前鶴 おとづれ小舟がまく月の月の月の月の月

せ类

手稿

寄月夢 夜のゆの月もまどかの月もまどかの月の月
寄月思 まどかの月もまどかの月の月の月の月の月
寄月宿 月もまどかの月もまどかの月もまどかの月
寄月眺 月もまどかの月もまどかの月もまどかの月

十六日壬午仲の月夜よ

霧中雁來 霧のゆの月もまどかの月もまどかの月
深夜半月 猿のまふ風もまどかの月もまどかの月
始尋緣道 よくいのゆのまどかの月もまどかの月
砌下荻 まどかの月もまどかの月もまどかの月
寄席意 及びのゆのまどかの月もまどかの月

當坐

蓬萊

水郷邊 川上やまの風の夕はやがれをじかる音もすむ
松川筏 あさぎりの桜の花はせぬこの舟よもじを
ナリ彼岸よりのはるかう天神の声新よし一弓
船うちひへとげねもとあらがお舟よをきぬむ
まかのとハやまくよく、お舟くよむきく
橋の風ふと静かくともうの静やまくは
木日恩徳院より寺くもつまゆく月ひちふ
枕下蓋 ヒタケのよかまわぬまわのじてまくのまく鳥
有明月 朝りけねすとくわのやまく月もあまく新やすくん
簷忍草 あとの新ひまくわきぬれはまくたくぬまく松ゆく
学根

當坐
新秋雨 きみこよ神秋風 かみごの秋風のまことひくのまこと
松下擣衣 松の風をよがまくおだいのひくわもよまくまのと
窓沿繩 そよが風のまことひくわもよまくまのと
ま淨侶暮帰 窓のひるさまのまことひくわもよまくまのと
廿二日修理やまの家くへ徳あまくゆ

雨夜荻 狹くよよ狭きうつ風 ひだきおもしゆくは
幽栖月 暮の月をよよよかんてのまことひくわもよ
萬散風 ひよしあひりなるたぐわからんてのまことひくわも
逢夢返 ひよしあひりするのゆよく夜に床よもよ
山寺鐘 カマキリのむづひの寺のかひこしはくさんせやくわむの

廿二日左京をまの家の月次よ

夕 蟻 風ふるく夕暮れの秋の氣すむるむーのゑども
江 月 舟むき^{岩一本}とする舟船をさへとる入江のほよか十月新
夜 涙 あらわはつてぬ涙のソシニに被うゆめ、しおせやま
望 徒月 さうなすとてよひとてよひとてよひとてよひとてよ
お達魚 神浦山ふた冬の瀧つじよもととてよひとてよひとてよ
磯 浪 舟つ風あふ波なみ引シ又とくばくとくとくのちよ
獨述懷 たぐいなく我思かみの二人とも皆よかくくわいわうかく
廿九日佛地院住長等の坊の月次よ

初鳥来 舟へのかみよかみよと御用あふる在ちよる御家

月前松風 しめぐる松風のすきともやうかく月とくがくよもの松風せ
別夢鷗 ニムハの名ねもうかくおとこよしとくとくハヌヌリ別く
當坐秋 夕思 お風すまきやくへのあつてまきあまの秋のゆゑく松
蕭寺月 つよひくら松風もみ眞のこゑもくさく月よ望むあ
帰 宿 列くゆきのきのきのきのきのきのきのきのきのきのきのき
鶴告曉 鳥バ声なよくすまきあつまきつくるかくしてせんくをと

九月四日因坊の月次よ

夕 鶴 枝の葉がさんまふかくてももくとも本かなのくす
曜 霧 そよの拂よなまくを暖めすのこりとすく風が
灑 きをよき涼の涼の水ともくらきぬなまく風のよき雪

江畔鷹飛 ももほの音やしわくらは秋の風がぬき細じ
寄秋天鳥 みまきをかまくひるひるもよめをよめよめと
秋故郷 入きもかどん月をやまらんあきよへはるよの秋
因取因坊の奥の子をほらす ほらす ほらす ほらす ほらす

山初秋

被奉 眉もゆをおもむる秋よもよとおののきがくら

忘

鳥あすくもまつたせとひのまへかとむ枕のまごがくら

曙峰雲

月へ一西やるうみの下をまかねのいのきよつづ

六日深山か弓家の月次よ

河

霧の川のあまう烟霏よなちよす秋よ

離菊句

露の日影も菊も紅よすはすの津也おらさま

野宿

當坐 寝そよびの下萩おふぞく麦浪うすまよと波風

草花満野

おもろのまをあめぢり一月もしむかすらぬの秋よ

寄秋日恋

うみかくはくくら長月も月とくにまかまくもあつ

九日醍醐寺西南院佐藤顯済と院家の坊よく

よくす

重陽日

小美 逢むゆきもももももももももももももももももももももも

顯 庄名も川のたまむひ昔ふぼ本ももく一叶のまくわ

古寺夕 ゆめ火もまむの光もおもつむおもよもよもよも

十七日吉永サ浦の家の月次よ

秋

雨乞ひの秋の色よひよタマのまくらは

岡

葛

行

き

の

や

の

お

も

の

お

の

の

の

の

の

海

路

當

坐

類

ナレ

薄

露

當

坐

類

ナレ

江

残

月

當

坐

類

尋

在

類

ナレ

暮

山

鐘

遠

山

の

古

寺

河

山

の

の

廿

日

恩

信

院

黃

葉

當

坐

類

秋

霜

當

坐

類

赤

蓬

當

坐

類

初

秋

當

坐

類

鹿

秋

當

坐

類

曉

秋

當

坐

類

鹿

秋

當

坐

類

雨

秋

當

坐

類

雨

秋

當

坐

類

拂

衣

當

坐

類

紅

葉

當

坐

類

旅

人

當

坐

類

秋

風

當

坐

類

秋寺
秋柏
秋琴

廿四日同景寺
柏
琴

叢虫声

に本

秋恨絕句
秋眺望

廿九日大膳太史の家の月次

寒庭虫吟
霧籠紅葉

子根

野亭聞鐘
秋浅茅
穿岡恋
国家鳥
廿七日傍晝入道淨元の家の月次

海邊霧
野草欲枯
憑媒恋
暮秋風
暮秋菅

當坐

暮秋車 うち川やかどみうらく水車うちも秋をもとや
暮秋懷 つまむきもきもきのばほまでおれ秋のやうりがうめ
サハ日暮すてもよへるかまく次は遙かうへゆ

連峰霞 あさひの山の霞のうちもくわるうごく山のねえを
河邊霧 たのもよの源もくに川を弱よほのあくまくうちむけ
名立悪 うちもくぬ我名もくに水のなまきてのせと庵の一本よせく
社頭榦 がくくわがくく人のことのいとむの枝とくよやくん
晦日修理木まの家すく清あきりふ

暮秋曙 多くもねたのあと秋もくかようくぬきよのけいの
暮秋蘋 早き晴のきとうじと秋もく水もくとくまきの日数と

暮秋床 めくらのい床の深のうかくも秋もくあくわくとくえめ
十月あるあるあくく遠あよみ一中

初冬朝 ちうしんじの朝もくの神を月缺もくの日のかげくな
歳暮 きの年よしもまくもアラムらめくとくのくよつてり
遠尋惡 回それくあとのれ風もくとくのくよつてり
田家典 いにゆるぬきよのせち里の子のくりとくにのる

くの洋正サ例の家の月なみ」

初冬時雨 空空くせはおつかくとくまくとく時あよ告よ四才のうだき
落葉隨風 なづくくくの風うらがくまあるもやみのまちにうだき
來不留意 あとうの延きのむかとくのうめうめうめうめうめうめ

椎

當坐

紫 級々なる椎す。あきハ椎のもの。紫の花をもつて居る。

恨

詞類

言亦 乞かぬねや。あてもあくがまもさぬく。のうへせ

山

當坐

家夢 いつくよき。宿のあはらん村めの木のまほら。集

八日はす入道淨えの家の日なり。

初冬衣 えきすきてそがほんの里を無よ秋すもが衣うつまき
 椎紫嵐 あさうつもりへまや、風の嵐からも門邊
 閑中燈 得のまつともーたまつまくまくかくのなまづくの
當坐田 邊寒艸 桃林の庭にひよのくのくのくのま
 冬逢急 くあくへとよとくお衣被のまどよくうづかく
 冬夕海 タクモハモとうすくわり舟もかくのばやまとくひをせ

手稿

冬古寺 とりひがなす。ぬきそほへふきて、下たぬ寺の嵐
 九日刑部大浦の多の各月の月次す

時

當坐

落葉 あくのもの。あみの花のゆかるや。海の鳥がなくく

一本美後

祈

當坐

江千鳥 さくはのくやへひのすをばくたつせうすくまくら

後

寄原鳥 あくのまくらのまくらのまくらをめくら。京やあくやあくは

江舟 ぬくぬ入ひのくらくをくらむ。のこぎりの棹すのこを

ナニ日仁和寺底勝庵ともほよくほうよくよ

寒草霜 なまなま。まつりなまく。まのじもく。もくとがくらん

閨炉火あせやくすまなたのがくわきとかくあせにえそつ
穿衣恋衣せよりあがくまく被の身のうへまくも
古寺鐘住人ハメドケあくまくとこまくも鐘ふくとあ流
因十月八日越前入道日成住吉法樂とす
行路柳枝拂ひやまくをひ退幕もじと誰ともらま
積雪山岸よし流波風の名もつあつてまむおのへうさき
穿默恋やまくぬる跡のまめにとゆくひるめくのむ
ナミ日細川左近もまほ鶴元もひう鶴鳥の百々の歌とふ
らをあうふかたねの歌とほ間歌作よくはまく
はるも百々のゆく

朝鷹狩まよすく新風音入少のたうのをすのすの京
狩場默よくもとけくとけくとけくとけくとけくと
鷹狩衣芹じやまくかく衣かくかく衣かくかく衣
穿鷹雜ちたうちよあいんそうあいそとよあいそとよ
サ日是法院の月なみづ

曉天時雨新風の月よすく新風の月よすく
暮山木枯人をこくもかく木の心よすく新風の月よすく
晉後遠水くづくとよすく消つるまのゆきよすく
當坐初冬

山 雪乞のとめやまよあくるやまを萬山ハアミをかうてむづる
空帶鳴人くもみゆ神とかげ草よ漫そもむれ林のくもある
眺 望あなう教とちとすを消てめぐれゆつるあくを

サ一日或五の月次

遠時雨をすまうすまうすまうすまうすまうすまうすまう
寒草霜あすまうすまうすまうすまうすまうすまうすまう
河邊鳥あすまうすまうすまうすまうすまうすまうすまう
江邊寒艸^{シナシ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
洛陽雪^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
俄變鳥^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
伊豆の四日をすまうすまうすまうすまうすまうすまう

水鄉鳥^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう

サ二日左京ちえの月次

冬 月あすまうすまうすまうすまうすまうすまうすまう
残 鳥^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
海 路^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
時^{當坐}兩廻岡^{シタマツ}のすまうすまうすまうすまうすまう
年欲暮^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
經年^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
閑居友^{シタマツ}あすまうすまうすまうすまうすまうすまう
廿九日仁地院後教^{シタマツ}も等の坊の月あ

落葉埋庵うづかまきあそ一の宿うつは筆走りくのむ
行路時雨日救うと山道と出まへて見ゆぬ神うとやうす
残形見ゆ仰のまぬまこと景なまゆるがみハちとほくとよ
時 雨消ましに晴れよしん詫あや一月のすくさのむとむの本
夕歳暮嵐のまゆのおくとたむらんとみやまかづるよしわ
祈 無あいといはちわとひる二つまよ神ちすよとくあらむちうむ
羈中憶都多むゆく故の人乃ちゆのゆふ實かのゆの風もうむち
十一月七日細門うれめ浦歌くちみとくへ寝あ
初冬霜本多あちむねよまくまく寒さよの歌を歌ひゆくめに
惜別鶴もくまで月のいもむやまくまくもりをいふよこまく

古寺鐘

九日後山度才うく徳のトムサーキ

雪朝望立流く野々の烟立まどくす里のまよくのゆせ
残鳴鳴立まよく松風もあほて早月のまよのゆくとくのゆ
寄鳥鳴立まよく松風もあほて早月のまよのゆくとくのゆ
旅宿くあまくわくわくとくとたじなのまよにゆくとくのゆ

十日畠山をまつ伏羲澄すとくとくとく

冬 朝射つ日むくのまよのゆくとくとくとくとくとくのまよ
冬 旅立まよく射りくまよく波立まよく水立まよくのまよく
十九日刑部大輔の家のまよ

冬夜難曙

明木葉

囂中夕雪
松林のまゝたかまくもあらわすかとよ
山家人稀
あるまじくまづまきとてのむかひあらわす
朝木枯
えいかとおとこめの樹をほしく高木がたゞやとの木枯
祈空立
そめうけの木をさむるむきを毎日かの
曉
夢月は松の木つてかのこのまゆふりかへさめでのなむ

廿日ゑほ院の月をみて

氷未深
しのびや水の下のまづやくまづやくの月
雪夕残鷹
ぬ葉のあむ回半の行ひやまよおとくまづやくの月
寄燈魚
ぬまづやくがくぬ燈のうきやまえて消る月と

當堅

時雨易過

足りずともよきに付ゆるまのじまくわすら
ら葉

浦千鳥
たむれまくともまくはまくまくしり緋よゐるまく
寄船急
はまくまくはまくまくはまくまくやまくまくまくまく

山館竹庵まつ庵の竹もまくまくまくまくまくまくまくまく

廿一日大絶だいぜつたまく家がよく仕事は樂の百景よりゆ

早春鳴
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
松上藤春のと藤のみまくまくまくまくまくまくまくまくまく
郭公稀
時もまれなる中の望がまくまくまくまくまくまくまくまく

見
月せのくのよそのまくめくがまくまく用やまくまくまくまく

紅葉淺秋あきまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

松

雪をもくじきの風流さにて松よひる雪のあらぬ

穿山岳あらうとぬゆはまのこもむきよ枝よちくあらす
穿鐘ゑあるかきくまむきむりのせの人の通説とてこしめらん

祝言有注神済よりますとがちあらむ事の教やもとひおきらん

サノ日傍す入道淨えの家よくよくみうあらす

冬朝日山もくより釣もほつはくえすおゆどりくわく

冬嶺松一本のねくの家よきくみあづけくやすのやくなら

冬舊應そきなんやある故のがくももよしもくにいれ

冬古寺そきよきのれのね風そくするもくみく匂いのこれ

サ八日右うゑ佐の家よく傳ひうるよ

初冬時雨

さすアケルきのまかをとてやだくぬのりくす

欲別恋

あくまくまくの別とりゆれあくねばせのあけくよとのた

山裏松風

さきや風もくとせりやねくわくとくわくとくわくとくわくとく

羈中憶都

さく枕邊のうちふくとせりやねくわくとくわくとくわくとく

廿九日修習大丈の家よく小野は法樂百十もー小

年門立春

さくあきよくまくまくはくとくわくとくわくとくわくとくの月やまのぬの

とす露花

さくわくまくまくはくとくわくとくわくとくわくとくの月やまのぬの

夜盧橘

あくよかくとくとくわくとくわくとくの月やまのぬの

深山鹿

さくと鹿の秋のうの昔むろうくの月やまのぬの

島

月やまのほそりよれへたれよ被る月の夜まのぬを衣

篠 穂 太山経やさのじうとつままでよきり、谷のむら井

歳暮雪 まのとくもんかくれぬ天つ風ちよびまくさきめくを
寄秋風ふ そりうのすみかの枯風よなもくもん名はらむほ
寄船魚 まくいふねまくねまくもくじものきのあくまのまく舟
古御雨 舟おきしのくやまとまくまくと雨吹きまくさん
神 祇 神きよめのひまきの船よめうたの馬場よしきあくし

十二月二日三段大輔の家の月次

駅路雪 まよみ浦やしの駅のまよみ駅とまよみぬまく船のまよ
炉火似春 ほ火のまよみ煙の宿やの内ふまのまよみのまよみ
田家鳥 まよみのまよみやかまくまよみおとくまのまよみ

當堅
初冬木枯 まよみてハ松の内の梢まくれこじのまよみのまよみ
舟
船中雪 朝日まくまよかまくかまくぬね浦のまよみのまよみ
寄默恋 のまよみやまくの車まくまよにしてよどむかまくまよ
延基
寄席恋 向妙の被まくめハまよみまよまよまよハ少モーう乃ま
故山猿叫 実ゆくばまくめのまよみのまよみ月のとくまよまよ猿まよ
五月佛地院僧教長昇興りて大伴黒ミ村
五の法樂あまくや

歳中立春 まよみやつまよみ船もものまよみまよみてあじまく
春 雨き宵くまよみの雨下緑まよまよまよまよまよ
タ 立 まよみやまくまくあまくまよみ川のまよみをタまく

秋

夕ニテシナセメシクサシシタリホシタナキトモアヒト

野

月月ヌヌマシトモシテ一ツ行クシテアシカシの林の内を

落

葉チシジヒシテトボルトモモアシモアシの故アシモアシ

寄

煙立トハシモアシヒ煙の立テシヨツハおセキナシモアシ

寄玉高

ミシシモシテシヨツハシモアシハ我ニモシハカシモアシ

嶺

松ノ木ナシスル神ヤシミムモノハシモヤシモム

六日同長井の坊の月次

神

樂テケルハ神ハ神ニシムアシモアシナセアシモアシモアシ

歲

暮七十の木モモリテシテアシモアシモアシモアシヤモ

島

松ニシムアシモアシ小島の松ニシムアシモアシモアシモアシ

子林

田 残鳴 當坐 ヲミテリナシモキシカシシテアシモアシモアシ
歳暮念 オアシモシムヨウモシムアシモアシモアシモアシ
絶經年 立 カシムアシモアシモアシモアシモアシモアシモアシ
山 家 神モシムアシモアシモアシモアシモアシモアシモアシ
羈 旅 地モシムアシモアシモアシモアシモアシモアシモアシ
八日おが 一坊ツムク後アドリヤ一中よ

早春雪ニシムアシモアシモアシモアシモアシモアシ
梅雨暗 立 ナシルの内モシムアシモアシモアシモアシモアシ
新秋露 やシムアシモアシモアシモアシモアシモアシモアシ
濱千鳥 立 ナシムアシモアシモアシモアシモアシモアシモアシ

あ蘋底 たのまくよしのかすくぬうきすむる絲と絶やすき水の聲も

暮山雨 ひり住すのうき付のくよまへてかくへてかくへてゆふをかく

十日たゞままでの月次よ

埋 火種の火のせよばがむせよばがむせよばがむせよばがむせよばがむ

年欲暮 沈のせよばがむせよばがむせよばがむせよばがむせよばがむ

田 當坐 氷 家あれまつれ因うきほのあら床かどんと重々と積よまつて

あらきの被の氷とかまくすの川乃いのいれづ

氷 懸けりとやまなみ床よひせめくわがよひつれて

顯 山 家庭の席前あらきのそとつたのまくわがよひと

懷 舊 どうまくわがよひとおまくわがよひとおまくわがよひ

十一日或正の月次よ

鳥をかくすの聲も草葉ハミーふりもくぬよとくたま

雪 水 急 詠くもかくすの聲やかくすの聲のゆくともくじ
朝木枯 當坐 さうのいの月の種のねきをかくすの木枯のるを

逐日雪深 みうちやぢの竹のすくとよとくかくすとのさか
寄雪云恋 うはゆよどひ消へやけ草くすの聲のうげくのうら

寄塵恋 あらぬよの枕のちよとよとくのあらういよとくのうづぬ

漁 客 いとく少を浮きよびたる舟く先がくれとくつとく

十四日或正の月次よ

けはまくればよ

早 梅 あめよまきの梅も月がまくらまくのへつせ
歳暮雪 まつゆきよりとくろり行年はきのあこととよむじまわレ
恨 烏 の秋をさむとてハ浦風よ萬のうやくとむる浦
ト类 し日
時 雨 二つようたまきしむかくとむらむらこもる
不逢遇 まつまつとあづの秋もあづの令あづかがやつまん
さくせぬなまたる浦の邊うへまじつるみやまね原
鶴 邑 なまよて女のまし舟とくまくさくわる川の島の里
冰 十る草庵まくらむる法樂ちよ
初冬月 あくまくちよまくまくくせのよだほる夕月
サ日思涼院の月なまく

祈逢恋 二年とたかくまどひおぢれくおなづるちよとまく
嶺上松 めぐらすまくまのねのねよ出る月あくめくやよくまくさん
あく本
晴天鶴 ひとくあるひいとくみの日のたてぬきのほの色衣

サ日思涼院の月なまく

冬残月 まとまくサ日の月のまとまく消えぬ月なまく
歳暮松 まくまくまくやへりくまくのねもむくのまくつらひ
鷺三汀 はまよまよある海の汀とまくふやけのまくまく消
當坐
初冬嵐 しわのまよ嵐もまくまくれのまくまく静まく月の見
網 代り風もまくまくのまくまく風もまくまく消えまく方を
庭 雪 まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

俄々魚海うみかに生うくのめは風かぜは詠うたくもな
遠樹鷄とぎ多おむせらぬ本もと實じつとアラ斗たたかひのまきとさる
旅泊雨あ舟ふねのうちも宿しゆとがまくさうの雨あめとまむ宿しゆよおさん
サ一日いち三さん宿しゆよく詠うた神かみ法ほ樂らく百ひゃくのゆ

立春風は治はるまつすうの神かみ風かぜと氣きをまわすえんをあがく
山家花さんかはくよきのこのねはくよきのねをふく
夏月涼なつつきちやうづきをくわく月つきとくしてき涼なつす風かぜ
故鄉露よどりさくらも露あめいはくまのせよかさくらも露あめいはくまのせよか
札ふり雪ゆきいよあくみの札ふり人ひとやまむらかさくやのきに札ふりと
寄煙よせん庵あんやちむの因いんのらせむたのぼくへよおとくよおの烟えんと

子相

古寺鐘こくじの鐘かねやいそくをかくよわせふとのの鐘かねの音おとと音おとがた
釈教しゃくきょうくよくをかくよわせふとのの音おとと音おとがた
サ四日よ清淨せいじやうをまかよく年とし忘うつのよみすずみよ
冬曉山とうこうさんさえか一月いつげつハ朝あさ毎まいがくがくしあはるきゆく山
寄庵よいあんゑゑまきよるわどいみその小こ田だのあはくあはくの床ゆかの枕まくら
隱士出山いんしでさんせよ出でくもがちよくあはくあはくのよきやくよきやくと

子雀書

七八四十八止

子

